[試合前の準備とセルフジャッジについて]（チェアアンパイアのつかない試合規則から）

１．試合の始まる前にネットの高さは正しいかシングルススティックが正しい位置に立っているか確認する。
２．ウオームアップの前にトスをする。（トスの勝者はサービスまたはレシーブを選択するかコートのエンドを選ぶ事ができる。勝者がサービスまたはレシーブを選択した場合敗者はエンドを選び、エンドを選んだ場合サービスかレシーブかを選ばなければならない。また勝者は敗者にどちらかを選ばせる事もできる）
３．ウオームアップは指示された方法を厳密に守る。
４．セルフジャッジの判定は以下のように行う。
・アウト、フォールト、サービスの“ネット”の判定は瞬間的に相手に聞こえるような声とハンドシグナルで行なう。
（一旦アウトまたはフォールトとコールし、それを瞬時にグッドと訂正した場合一度だけレットとし２度目からは、相手の打ったボールがインかアウトかはっきりしない場合は“イン”と見なして試合を続行する。（レットにしてはならない）
・相手コート上のボールの判定は相手にまかせ、たずねられないのに口を出さない。
・相手が自分よりボールを見るのに良い位置にいた場合は自分のコート上のボールの判定にも相手の意見を求める事ができる
・判定について観客や相手以外のプレーヤーの助けを求めてはならない。
５．サービスのレット（ネットイン）はレシーバー、サーバー両者がレットをコールできる。
６．サーバーは新しいポイント、新しいゲーム、新しいセットの始まる前に必ずレシーバーに聞こえるような大きな声でスコアアナウンスしてからサービスを開始する。
（レシーバーはサーバーのスコアアナウンスに対し正しく聞こえたら同意を示すため、声またはジェスチュアによって合図を送らなければならない。疑義がある場合には直ちに確認を行う。次のプレーが開始されたらさかのぼって訂正を求める事はできない）
７．スコアが分からなくなったときは双方が合意できるスコアまでさかのぼり、そのスコアに合意できたスコア以降、スコアが分からなくなったポイントまでの間で双方が合意できるそれぞれが取ったポイントを足したスコアから再開する。再開するときサーブするサイドは再開のポイントのスコアに準ずる。ゲームスコアが分からなくなったときも同様に処置する。
８．スコアボードのあるコートではエンドチェンジのときにスコアの更新をする。（できれば各ゲーム毎に更新する）選手名のないスコアボードでは上をドローナンバーの若いプレーヤー（ペア）のスコア、下を数の多いプレーヤー(ペア)のスコアとする。
９．インプレー中に他のコートからのボールが自コートのプレーゾーンに入ってきたり物が風で飛んできたりして妨害が起こった場合は、直ちに「レット」とコールしてプレーを停止することができる。なおレットをかける前に打たれたボールはその行方を追いボールが正しくコートに入った場合レットが成立する（アウトの場合そのボールを打ったプレーヤーが失点する)。プレーが続きポイントが終わってからレットを主張する事は出来ない。
10．インプレー中持ち物を落とした場合それが一回目のときは直ちにレットをコール（レットをコールできるのは落としたプレーヤーの反対のプレーヤーのみです）してプレーを停止する。レットをかけた後の処置は前項（９.）後半と同じく処理する。この後その落とし主は次からは落とすたびに失点になることを確認しあって試合を続行する。
11．トイレットブレークや飲み物補給、着衣の突然の不具合などさまざまなやむを得ない理由で試合中、一時コートを離れたくなった時には対戦相手およびロービングアンパイアまたはレフェリー（含むアシスタントレフェリー；以下同様）に申し出る。
12．試合中体調が悪くなったりケガや持病の悪化があったりした場合、無理をせず「リタイア」を申し出る。この場合まず対戦相手にその旨告げ､その後周囲の人にロービングアンパイアまたはレフェリーを呼んでもらってリタイアを申し出る｡「リタイア」はレフェリーが決定するので選手は対戦相手が同意しても勝手に対戦を終了したりコートを離れたりしてはいけない。
13．相手の判定が常に著しく不適当に行われていると判断される場合、その言動やフットフォールトに疑問、あるいは不服があるときはロービングアンパイアまたはレフェリーに対処を申し出ることができる。
14．選手間で解決できないトラブルが生じたときはロービングアンパイアまたはレフェリーに裁断を申し出ることができる。
15．コートサイドに携帯機器を持ち込む場合には必ず電源を切って持ち込むこと。プレーヤーは試合中に携帯機器を見たり操作したりすることはできません。
16．上記以外のルールは最新の「ＪＴＡ　TENNIS　RULE　BOOK 」に準拠して行います）